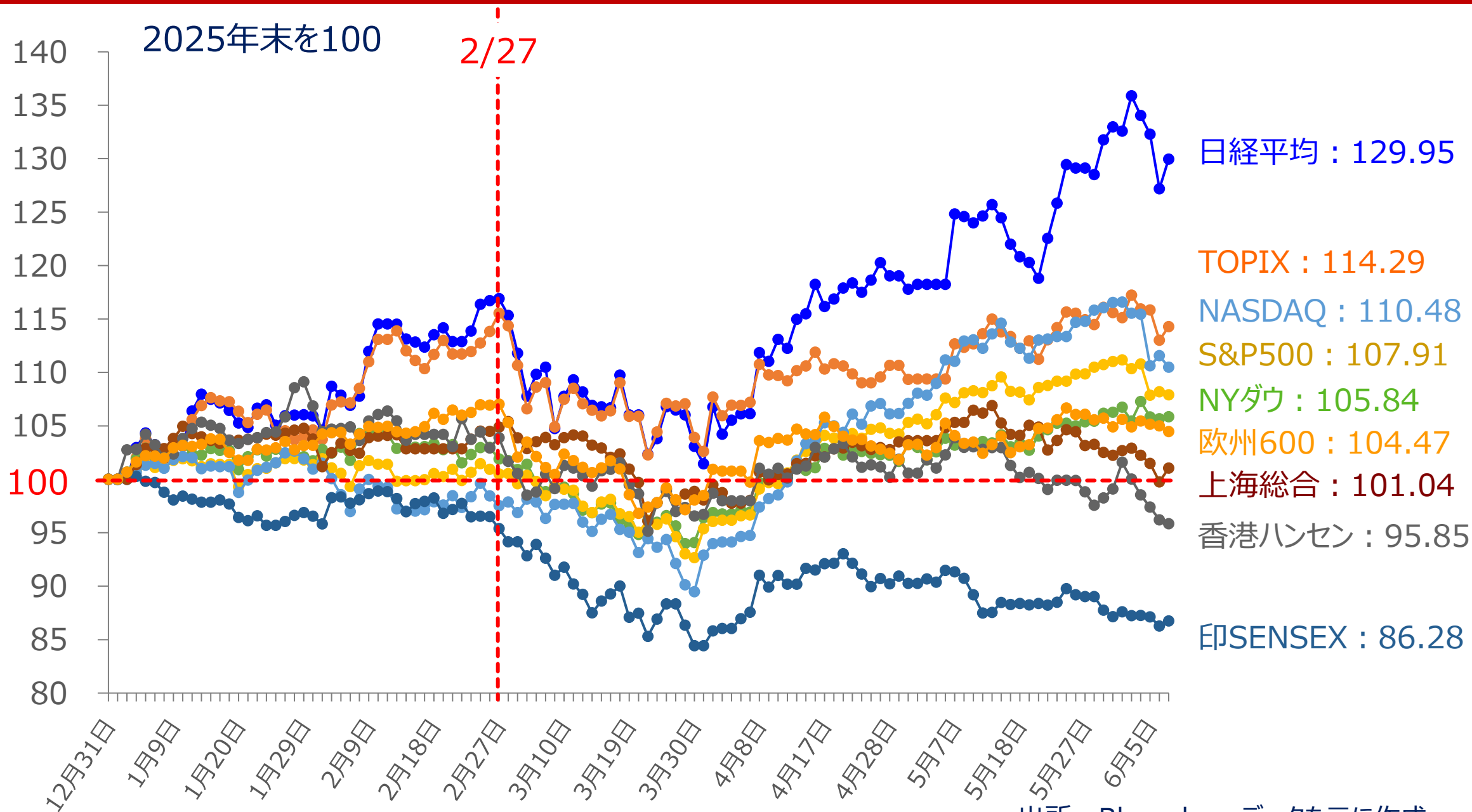


# ■ 世界の主要株価指数のパフォーマンス比較 (2025年末を100) 2026/6/9時点



# ■ 日経225先物(日足・大取) の動き 2026/6/10前場終了時点

日経225OP取引 NS終了時

6月限 コール買い建玉

5/30

6/6

6/9

6/10

65,000円 : 4,791枚 → 4,737枚 → 4,990枚 → 5,053枚

68,000円 : 4,470枚 → 4,500枚 → 5,178枚 → 4,671枚

70,000円 : 3,238枚 → 3,565枚 → 3,841枚 → 3,775枚

70,000円

65,000円

60,000円

55,000円

50,000円

26年1月

2月

3月

4月

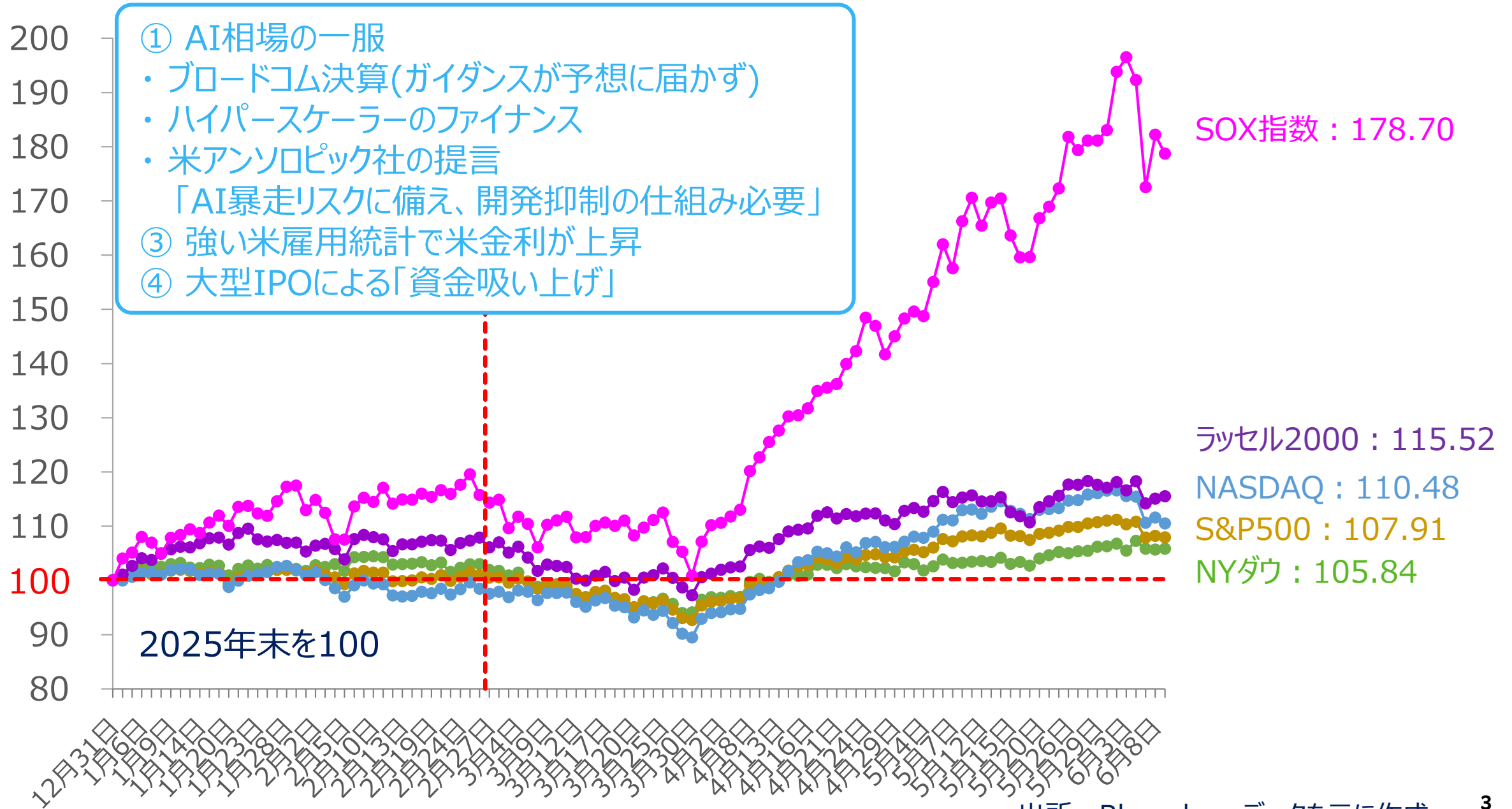
5月

6月

**R**

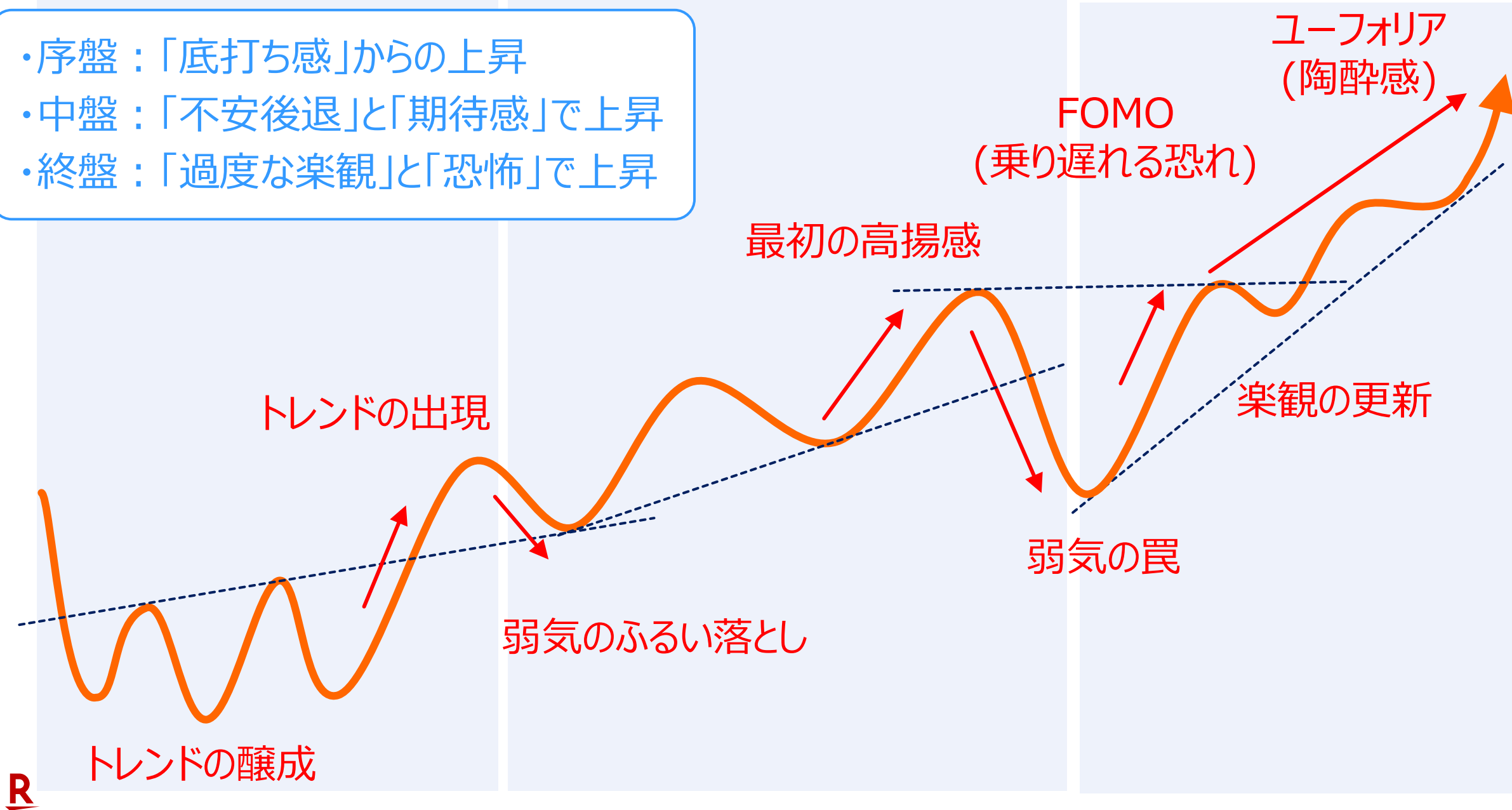


# ■ 米主要株価指数のパフォーマンス比較 (2025年末を100) 2026/6/9時点



# ■ 相場のムードから見た上昇トレンドの波とポイント

- ・序盤：「底打ち感」からの上昇
- ・中盤：「不安後退」と「期待感」で上昇
- ・終盤：「過度な楽観」と「恐怖」で上昇



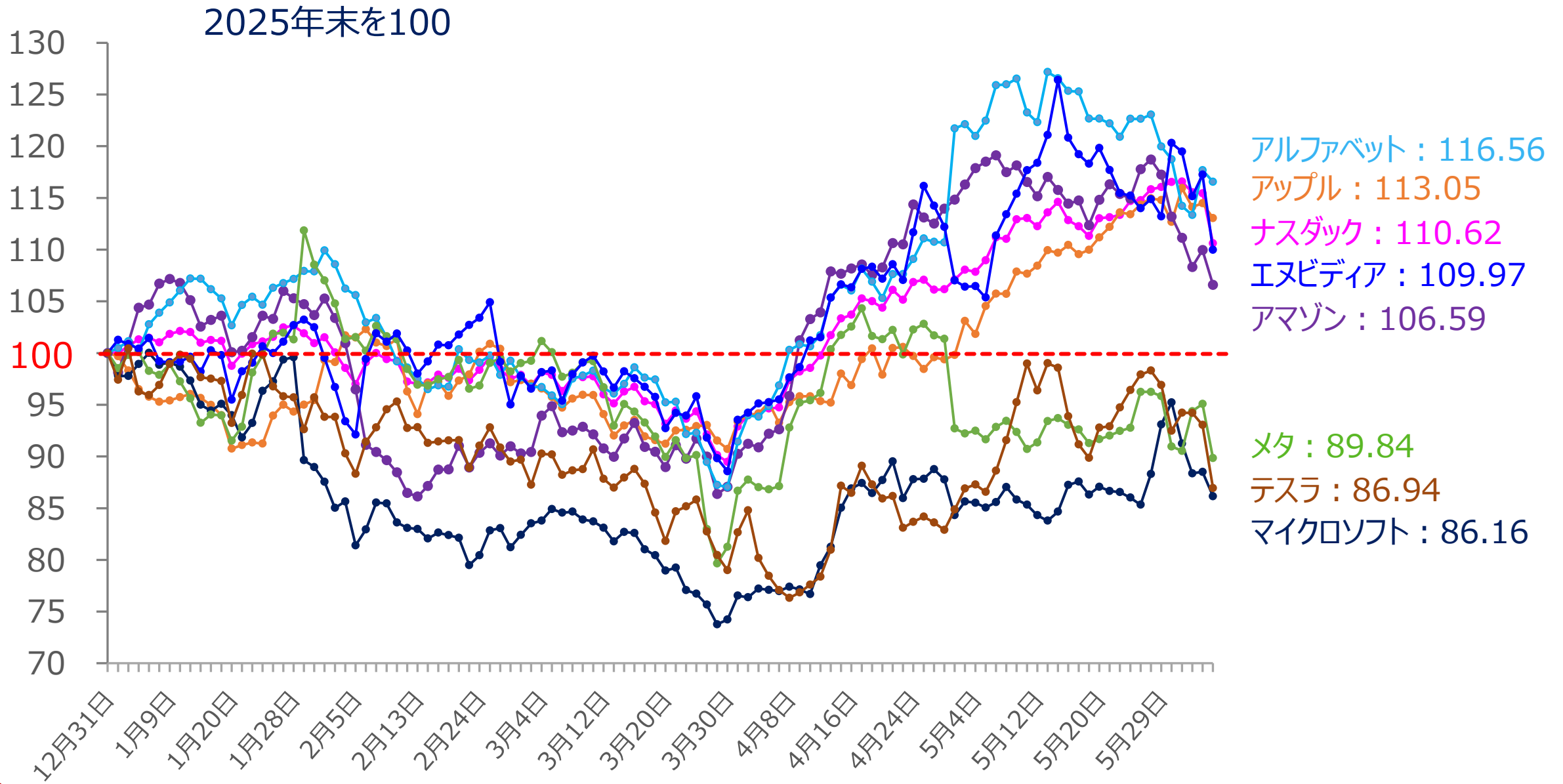
# ■ 「FEMO(Fabulous Earnings Momentum)」素晴らしき収益モメンタム

## 「FEMO(Fabulous Earnings Momentum)」とは？

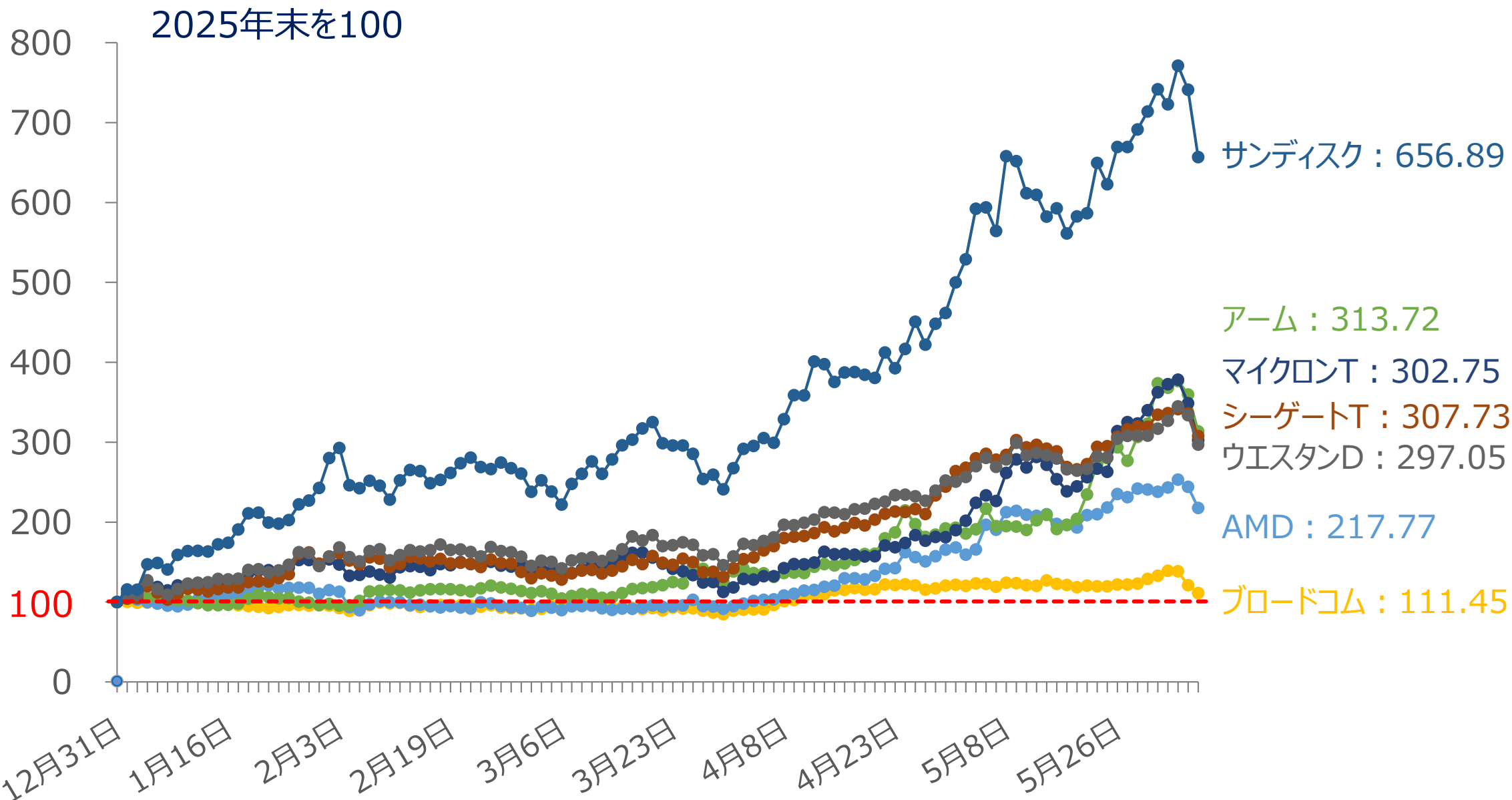
- **Fabulous Earnings Momentum** : 「素晴らしき収益モメンタム」
- 相場の牽引役となっている銘柄の割高感はあまり出ていない(PERやPEGレシオなど)
  - ※PEGレシオ (PER÷利益成長率)  
「高いPERでも、それを上回る利益成長率ならば割安」という考え方  
目安は、1～2倍程度が「適正」、2倍を超えると「割高」、1倍未満は「割安」
- 需要拡大と業績成長を伴った株価上昇は継続できる
- 具体的なAI需要を裏付けるストーリーの登場 : 「エージェントAI」、「フィジカルAI」
  - ※米GSの予測 : 26年～30年にかけて、AIが処理するデータ量が24倍に増加
- 必要となるインフラや製品、資源は増加する見込み

⇒ 株価の上昇はバブルっぽいけど、それを正当化できるだけの企業成長がある

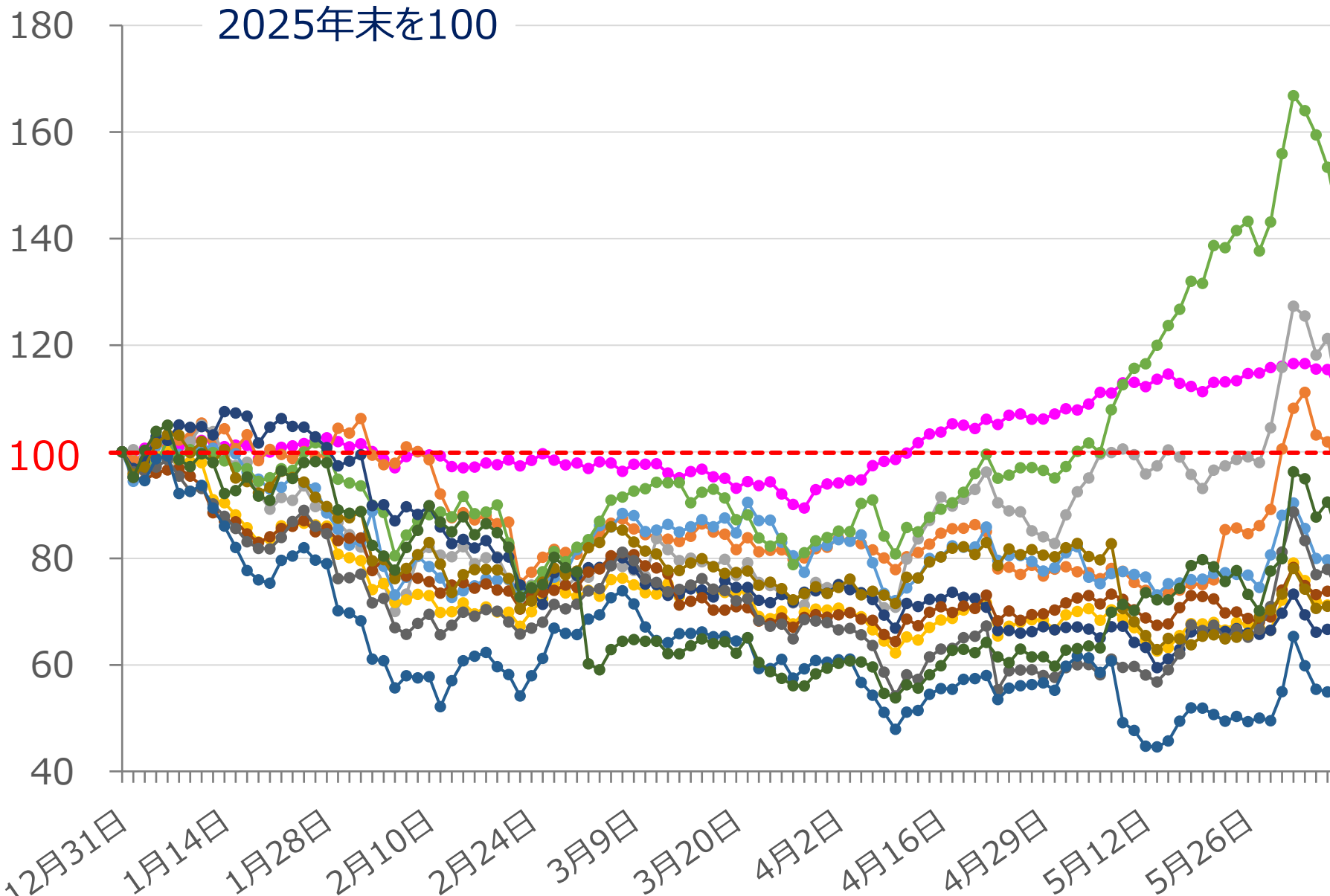
# ■ 米M7銘柄のパフォーマンス比較 (2025年末を100) 2026/6/5時点



# ■ 米半導体・メモリ関連のパフォーマンス比較 (2025年末を100) 2026/6/5時点



# ■ 米AI関連銘柄のパフォーマンス比較 (2025年末を100) 2026/6/5時点



クラウドストライク : 143.15

NASDAQ : 110.62

オラクル : 109.63

IBM : 96.16

モンゴDB : 83.57

パランティア : 76.25

サービスナウ : 73.41

アドビ : 71.84

セールスフォース : 70.08

TOST : 69.39

アクセンチュア : 66.44

ハブスポット : 52.99

## ■ 今後の注意すべきポイント

### ① エージェントAI特有の「セキュリティと信頼性」のリスク

- ・「AIでやれる事の拡大 = 判断等の権限移譲」…個人情報、企業の機密事項へのアクセス可
- ・AIのハルシネーションやサイバー攻撃による被害拡大リスク
- ・安全性確保のためのコスト増

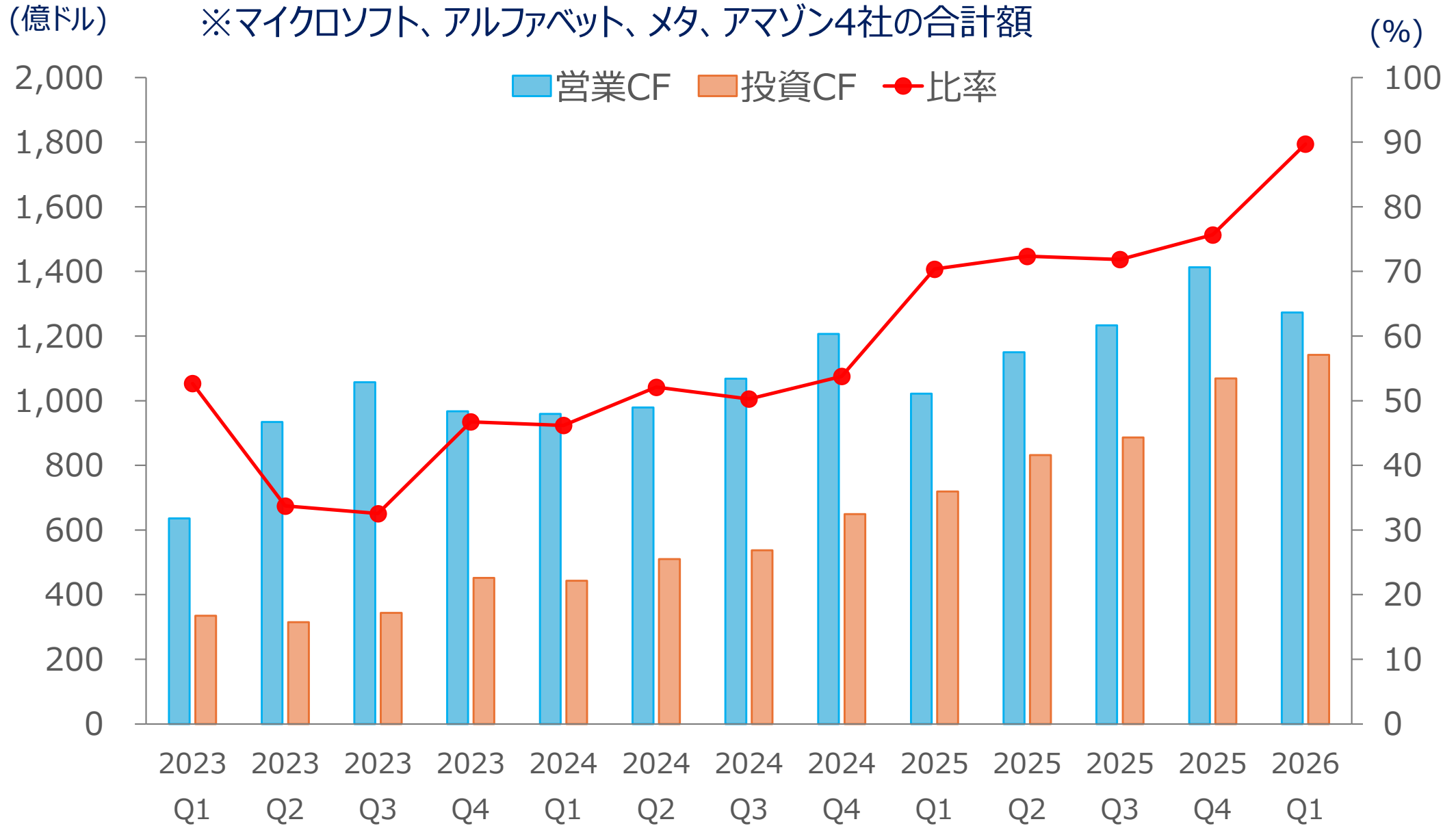
### ② 社会的ゲームチェンジ & 法規制 & コスト

- ・AIが行動・判断することによる責任の所在、著作権、運用のための規範などの法整備
- ・AIの急速な発展・普及による社会的問題の浮上と対策
- ・拡大期から競争激化による収益悪化と、勝者と敗者の選別

### ③ 需要に応える余力の有無

- ・ハイパースケーラーの「投資疲れ(継続能力)」と、資金調達力
- ・AI相場の物色：ハイパースケーラー ⇒ 半導体 ⇒ メモリー関連 ⇒ データセンター関連、電子部品  
→物色は広がっているが、「AI投資需要が続く限り」という共通項

# ■ハイパースクーターのCF(キャッシュフロー)の状況



## ■ 米国市場では2026年後半に大型IPOが控える

	スペースX	OpenAI	アンソロピック
上場時期	近日予定	秋以降を予定 ※2026年6月9日に上場 申請完了したと報道	秋以降を予定 ※2026年6月1日に上場 申請完了を正式発表
上場市場	NASDAQ	未定	未定
想定時価総額	1兆7,700億ドル	1兆ドル超え	1兆ドル超え
IPO調達額	約750億ドル	—	—

※過去の大型IPOと比べても、規模の大きい資金調達額

- ・ サウジアラムコ(2019年上場)：約294億ドル
- ・ アリババ・グループ(2014年上場)：約250億ドル
- ・ 中国工商銀行(2006年上場)：約219億ドル
- ・ VISA(2008年上場)：約197億ドル
- ・ メタ・プラットフォームズ(旧フェイスブック)(2012年上場)：約160億ドル

# ■ 大型IPOのポイント・注意点

## ① 市場の資金吸い上げ効果(流動性の引締め)

投資家はIPO銘柄を購入するために、保有している資産を売却してキャッシュを確保する動きが想定されます。大型IPOはその影響が大きく、一時的に市場の需給の悪化して相場全体が下落する可能性があります。

## ② 株価指数への組み入れによるインパクト

上場後に一定期間が経過し、条件を満たせば、「S&P 500」や「Nasdaq 100」といった主要株価指数に組み入れられます。インデックスファンドは指数のウェイトに応じてIPO銘柄を購入、既存銘柄を売る動きが想定されます。

## ③ 初値の「飛び乗り」リスク(ジャンピング・キャッチ)

注目度の高いIPO銘柄は、公募価格に対して初値が大きく跳ね上がって始まる傾向がありますが、規模が大きいだけに、成長力を確保できないと、企業価値に対して単純に「割高か割安か」で動く展開になるため、上場後にまもなく株価が調整する可能性があります。

## ④ ロックアップ解除(180日ルール)に伴う下落圧力

上場前からの大株主や従業員は、上場後すぐに株を売ることができず、通常180日間の「ロックアップ期間」解除後に大量の売り注文が降ってくるため、株価が軟調になりやすい点に注意が必要です。

## ■ 【参考】IPO銘柄が株価指数に組み入れられるタイミング

### ① S&P500

- ・ 上場後すぐに指数に組み入れられることはない…「待機期間」ルールあり
  - ※ 上場してから最低でも12カ月間が経過しないと、採用候補リストに入らない
- ・ また、時価総額や流動性、直近4四半期連続で黒字などの採用基準もあり

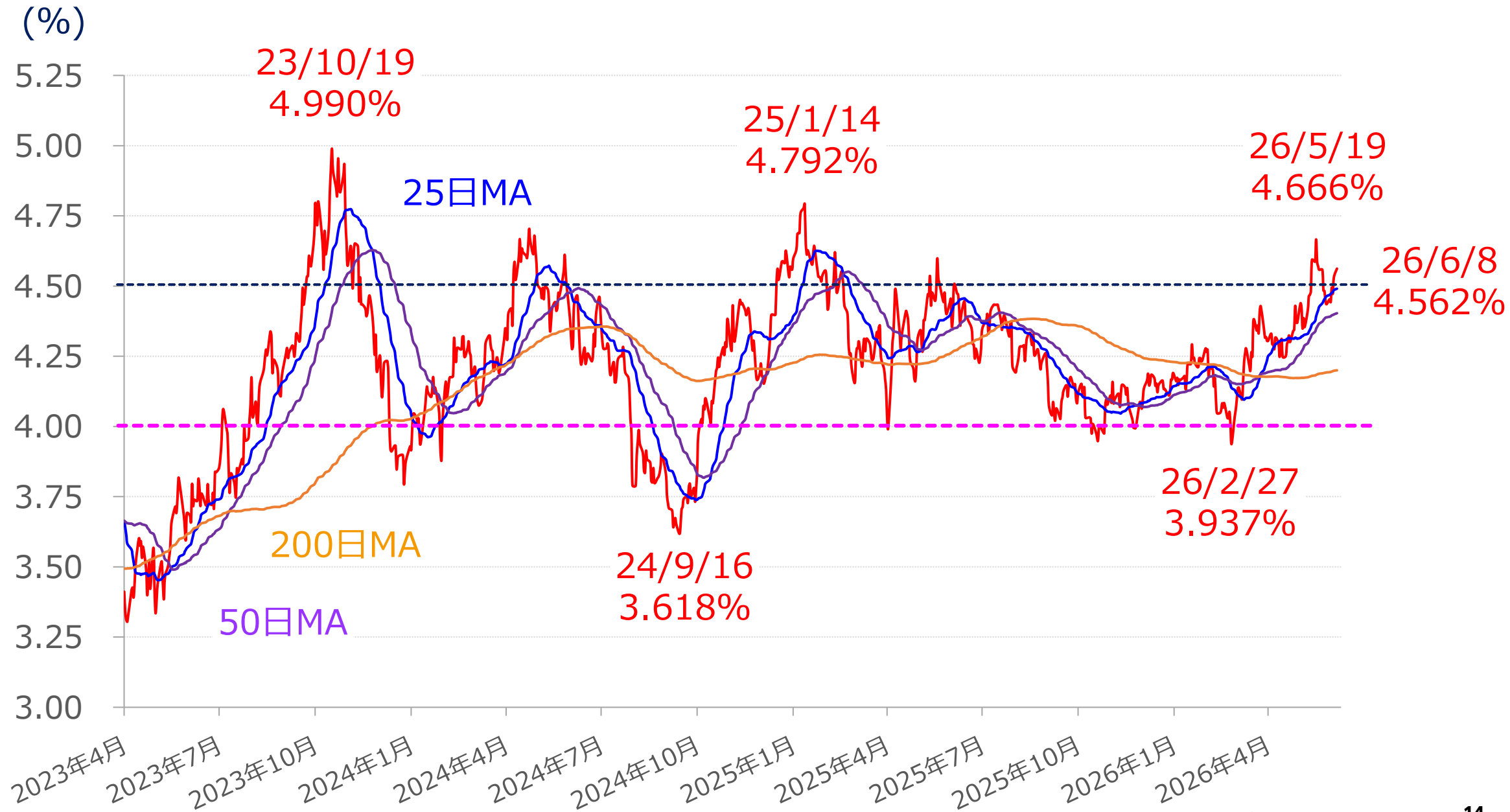
### ② ナスダック総合

- ・ ナスダック総合は「市場そのもの」を表す指数のため、待機期間なし
- ・ 初値決定の翌営業日の取引開始時から自動的に指数に組み入れられる

### ③ ナスダック100

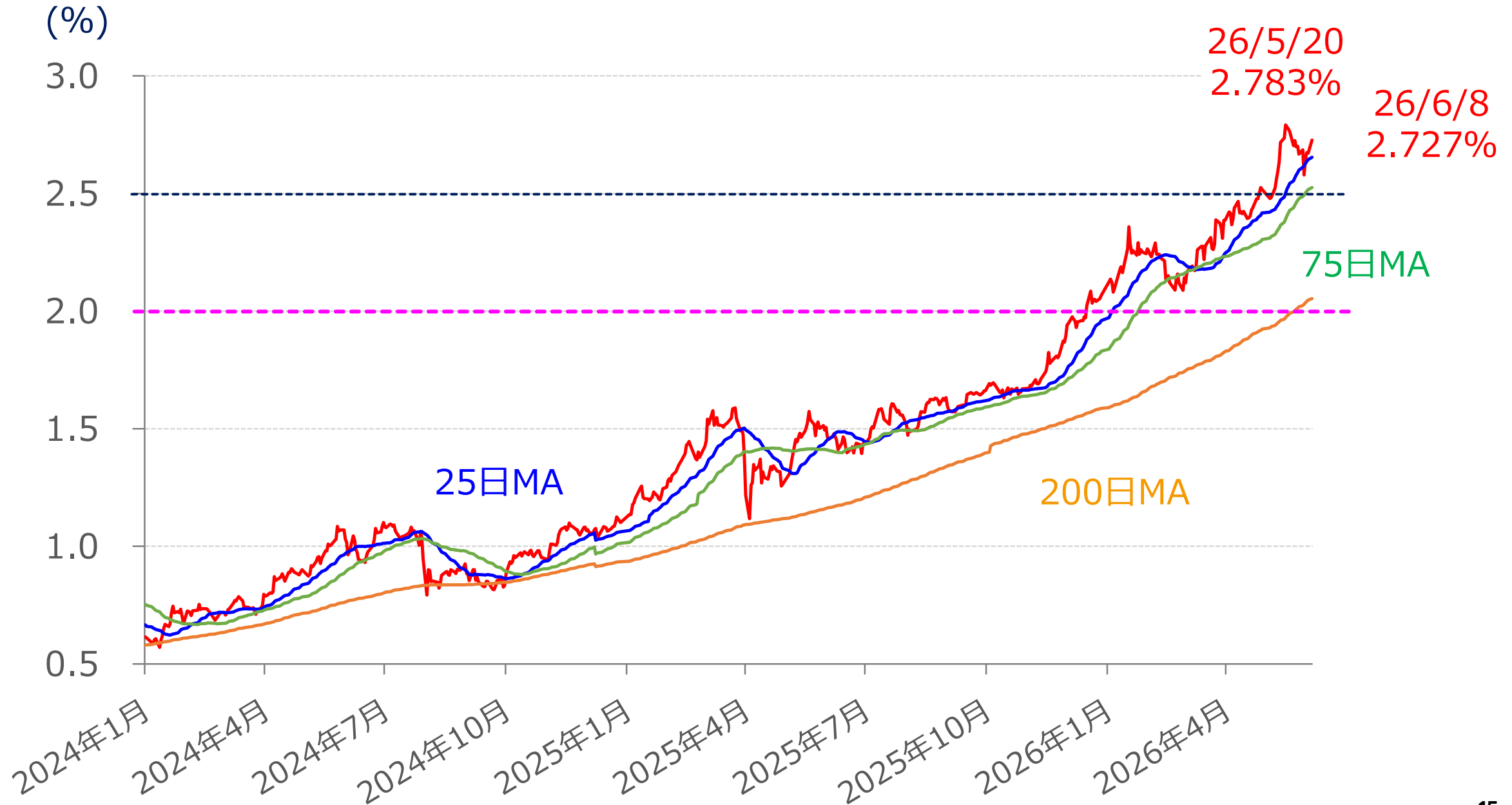
- ・ 指数組み入れについて、通常ルールと、「ファスト・エントリー」ルールあり
- ・ 大型IPOはファスト・エントリールールが適用（時価総額が構成銘柄の上位40位以内）
  - ※ 上場後、最短15営業日で組み入れ(上場後10営業日ぐらいに、組み入れ通知される)
  - ※ 通常ルールでは、上場後3カ月間を経て採用候補入り

# 米10年債利回り (日足)の動き 2026/6/8時点

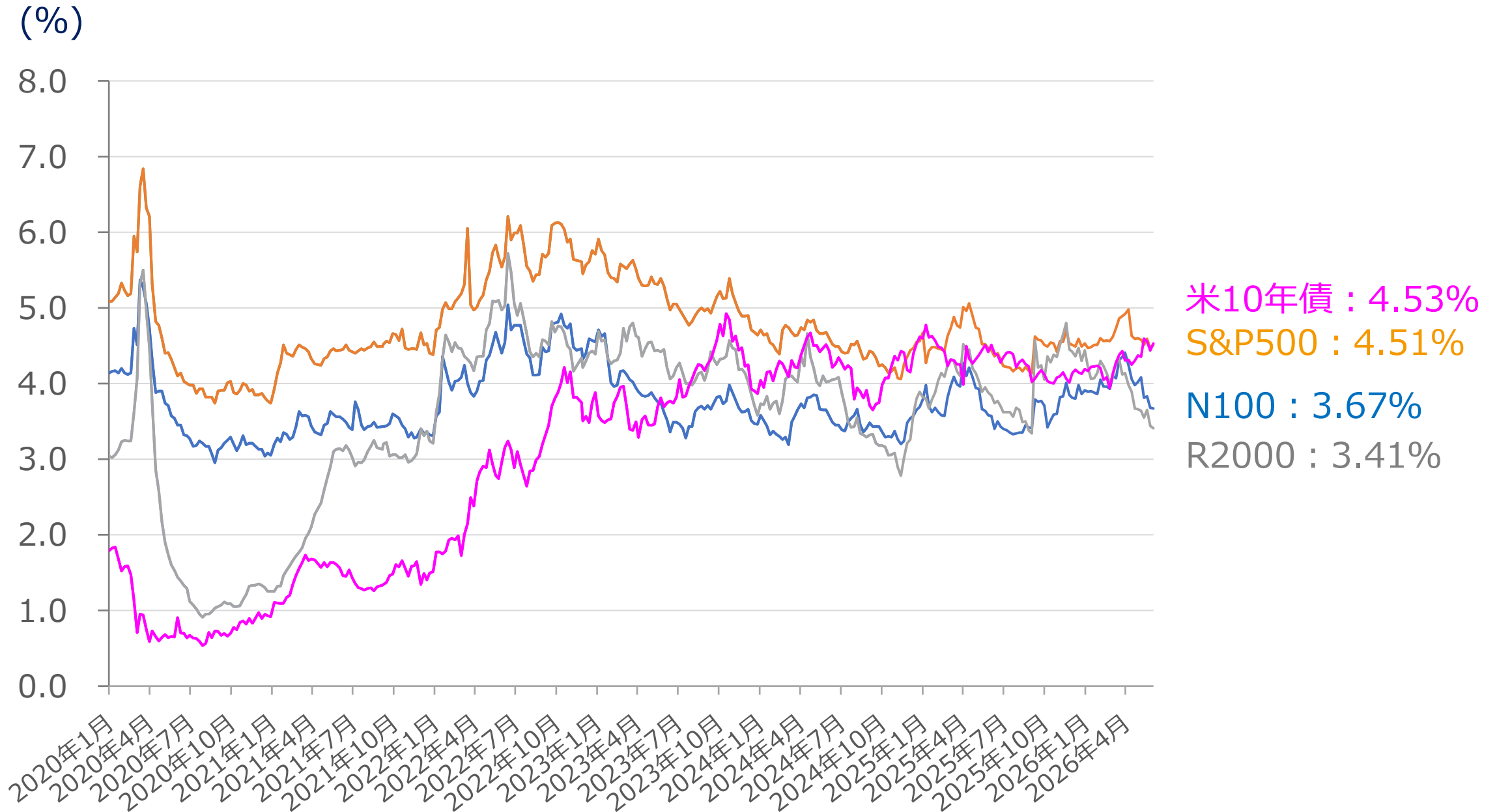


出所：Bloombergデータを元に作成

# ■ 日本国債10年債利回り (日足)の動き 2026/6/8時点



# ■ 米株の益回りと米10年債利回りの比較 (日足)の動き 2026/6/5時点



# ■ 日経平均とPERとEPS(予想ベース)の推移 2026/6/8時点

